

みんなのねんきん

20歳になったら国民年金

国民年金は、年を取ったときや病気、けがで障がいが残ったときなど、いざという時の生活を現役世代みんなで支えようという考え方で作られた仕組みです。

20歳以上60歳未満の日本国内に住んでいる人は、国民年金に加入することが義務付けられています。

20歳になった人には国民年金加入のお知らせ、保険料の納付書が送られてきます。保険料を納めることが経済的に困難な場合には、保険料免除・納付猶予制度があります。また、前年所得が基準以下の学生を対象とした、保険料納付が猶予される学生納付特例制度があります。保険料を未納のままにした場合、障害基礎年金や老後の年金が受け取れなくなる場合があります。

なお、20歳になった時点で厚生年金保険に加入している人、加入している人に扶養されている配偶者は、国民年金加入の手続きは不要です。

▷問い合わせ 保険年金係（☎ 223-3532）

「公的年金等の源泉徴収票」が送られます

令和7年中に老齢または退職を支給事由とする年金を受け取った人には、1月中旬から下旬にかけて、「令和7年分公的年金等の源泉徴収票」が日本年金機構から送られます。

これは、令和7年分として支払われた年金の金額や年金から差し引かれた所得税額などをお知らせするものです。

源泉徴収票は、所得税や復興特別所得税の確定申告などで必要ですので、大切に保管してください。なお、障害年金や遺族年金は非課税のため、源泉徴収票は送られません。

また、マイナポータルやねんきんネットで源泉徴収票の内容が確認できます。詳しくは日本年金機構のホームページを見てください。

▷問い合わせ 八幡年金事務所（☎ 631-7962）

消費者ホットニュース

意図せぬリボ払いに注意！利用明細は必ず確認しましょう！

＜事例＞

数年前、ショッピングモールで販売員に勧められクレジットカードを作った。利用明細はオンラインで確認することになっているが、スマホの操作が苦手で見ていなかった。最近、クレジットカードを使っていないのにここ数年、毎月一定額の引き落としがあることに気が付いた。カード会社に問い合わせると「申し込み時からリボ払いになっている」と言われた。（60歳代）

●リボ払い（リボルビング払い）は利用金額や回数にかかわらず、あらかじめ設定した金額を毎月支払う方法ですが、無理なく支払うことができる反面、支払いが長期化し

手数料がかさみます。

- リボ専用カードや自動リボ設定されているカードは利用の際に「一括払い」と告げても自動的にリボ払いになります。カード申し込みの際はよく確認しましょう。
- 利用明細を確認することで、意図せずリボ払いになっていることに早く気が付くことができます。利用明細は必ず毎月確認しましょう。

■年末年始の契約は、相談窓口が閉鎖し、事業者も休業するため、トラブルに巻き込まれた際に相談できないリスクがあります。「年末年始の契約はしない」と決めてしまうことも大切です。

▷問い合わせ 芦屋町消費生活相談窓口
(環境住宅課内☎ 223-3543)

芦屋歴史紀行 その三百五十六

芦屋歴史の里では、1月25日(日)に歴史体験講座「錫の古銭づくり」を行います。今回は、芦屋町の海岸に漂着する古銭や陶磁器について紹介します。

● 芦屋沖海底遺跡

芦屋沖の海は、波が荒く、古くから海の難所であり、海難事故の多い場所として知られています。室町時代の禅僧、正徹の私家集「草根集」にも「心せよ 浮寝のよはに 見し

夢や 芦屋の灘の 荒き潮風」と芦屋沖の海の荒さが詠まれています。

芦屋沖の海には、「芦屋沖海底遺跡」と呼ばれている場所があり、この場所には、沈没してしまった船や嵐に遭遇した船が海上に投げ棄てた積荷が多く眠っています。実際に、この場所に潜って調査をおこなったところ、大量の伊万里焼が発見されました。これらは、江戸時代、芦屋から全国各地に伊万里焼を売り歩いた、旅行商人が残したものと考えられています。

● 漂着する旅行商人の遺産

昭和53（1978）年ごろから突

如、芦屋や岡垣の海岸沿いに大量の陶磁器や古銭が漂着するようになります。これにはいくつかの理由があります。ここには、もつとも多いのが、江戸時代の寛永通宝、2706枚です。ちょうど、旅行商人たちが活躍していた時代と重なります。これらの古銭は、射爆撃場がありました。この射爆撃場が1978年に閉鎖されるまで、芦屋沖の一部の海域では漁業の制限が行われていました。漁業解禁後、底引き網漁などによって、海の底で眠っていた積荷が動かされ、芦屋や岡垣の海岸へ流れ着くようになつたと考えられています。

また、漂着した陶磁器は、割れることなくきれいな状態のままのもありました。長い間海底で眠っていた陶磁器たちは、遠賀川から流れ込んだ砂を薄くかぶることで、波の影響を受けず、江戸時代当時と変わらない姿のまま、海岸へ流れ着きました。

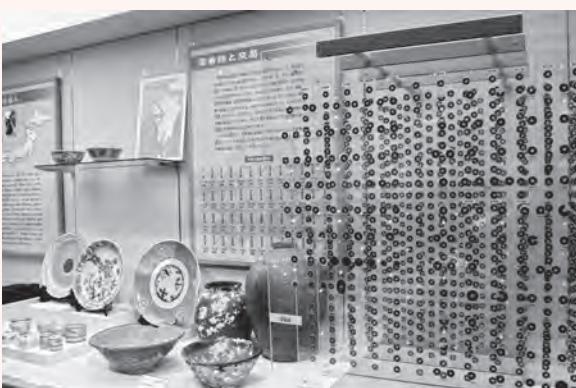
● 芦屋で見つかる漂着銭

芦屋の海岸に漂着した古銭は、芦屋歴史の里で保管しているもので、8000枚を超えます。このうち、表面の文字を解読できるもの

を分類すると、52種類の古銭があります。二十歳になる人に成人式の前撮りとして撮影のお願いをしました。撮影前からどこで撮るか、どう旅行商人が使用していたのかもしれません。

芦屋の海岸では、今でも陶磁器の破片などを見つけることができまます。また、漂着した陶磁器や古銭は芦屋歴史の里で常設展示していますので、見に来てください。

▼今号で特集しているあしや砂像展ですが、昨年は大雨の影響により中止となりました。今年は天候にも恵まれ、8万2682人の来場があり、大成功！今年はテーマが「恐竜」ということもあり、こどもたちが喜ぶかななど想像していましたが、大人である私でも恐竜の迫力と、砂像の繊細さに感動しました。また、彫刻家によって彫り方が繊細であったり、ダイナミックであつたりと違っていると思いました。広報紙内では、作品を写真に収めていますので、お気に入りの彫刻家を探してみることも面白いかもしれません。



漂着した古銭と陶磁器

編集後記

(篠塚)

